

教 仏 名 聞

第52号
(発行日)
2015年1月1日
発行所：真宗大谷派念佛寺
〒6638113 西宮市
甲子園口2丁目7-20
電話・FAX (0798)
63-4488
(発行人) 土井紀明
mail:bachkantata2mubansou@zeus.eonet.ne.jp
http://www.eonet.ne.jp/~souan/

《 聞法会ご案内 》
○ 〈同朋の会〉
毎月22日 午後2時始。
○ 〈念仏座談会〉
毎月2日と12日 午後3時始
○ 〈聖典学習会〉
毎月6日 午後7時始。
○ 〈真宗入門講座〉
毎月18日 午後6時30分始。
* 8月は2日の念仏座談会と6日の聖典学習会以外は休み。

道 光 明 朗 超 絶 せ り

道光明朗超絶せり

清浄光仏ともうすなり
ひとたび光照かぶるもの
業垢をのぞき解脱をう

(現代語意識) 阿弥陀仏のさとりから放たれる光明が光り輝く様は、すぐれていてとても他の及ばないところである。それゆえ、清浄光仏と申しあげる。ひとたびこの光明に照らされると、悪業煩惱が除かれ、浄土に往生して解脱を得しめられる。

* * * * *

このご和讃は曇鸞大師の『讚阿弥陀仏偈』の「道光明朗にして、色超絶したまえり。ゆえに仏をまた清浄光と号けてまつる。一たび光照を蒙れば、罪垢除こりてみな解脱を得。ゆえに頂礼したてまつる。」のお心を親鸞聖人がうたわれた一首です。

「道光明朗超絶せり」について聖人は「弥陀の光、明らかに勝れたりとなり」と注(左訓)をほどこしておられます。

しよう。
「栄光」という言葉もあり
ますね。
逆に、

阿弥陀仏の光明は、他の諸

仏の光や、世間の光の明るさに超え勝れていたもう、といわれるのであります。諸仏の光とは、さまざまな道であり、救いであり、教えと云えましよう。さまざまな宗教なり、教義なり、道徳なり、精神療法などの教えはそれぞれに私たちの心を明るくする道であり、方法でありましようが、それらの光にはるかに超え勝れているのが阿弥陀仏の光(南無阿弥陀仏)であると仰せられるのでしよ。

生活していく上での

収入が減り貯蓄が乏しくなると心は暗くなります。身体が調子がすぐれないと心は不安で暗くなります。老いの身になりまずと先行きが心配になり心が暗くなります。身近な人との仲が悪くなりますと心が暗くなります。

単に自分の事だけでなく、子や孫の事まで心配して心が暗くなるばかりか、国の政治があらぬ方向へ行き始めると心が暗くなります。困窮している人の姿を見ると心が暗くなります。

人間生活は心の暗くなる縁が山ほどあり、心が明るくなることよりも暗くなることの方が多いいえましよう。

そしてその多くは、自分に都合の良いようになると心は明るくなり、都合の悪いことにならうと心が暗くなる、これがいつわらざる凡夫の生活だと思えます。自分の都合を中心に苦と楽、心の暗い明るいが起こります。人間の一生

念 佛 寺 同 朋 会

一月二十一日(木)

法話

副住職

土井尚存

は、苦楽や心の明暗が入れかわり立ちかわり、移りかわっていきますね。ということとは、たとえ一時的に楽になり、心が明るくなっても、すぐ変動しますので全体が不安定だといえましよう。ですから、凡夫の人生は「苦楽ともに苦」であり「人生は苦なり」との仏語の通りだと思えます。

さて、このご和讃で、阿弥陀仏の光明(清浄光仏)は、他に比して比べものにならないほどの明るく勝れた光明であると讃えられています。お金や名誉や健康などの世間的な価値の光や、さまざまな他の道や教えやいろいろな精神療法などの光に超え勝れている光と云われるのは、阿弥陀仏の光明はすべての人を差別なく照らし、いつでも照らし、どこでも照らして私たちの心を撰め取って下さる光であつて、一度お照らしに遇うと、仏の光は私の心に離れることなく、壊れることもなく、滅

ることもなく、私の心を本質的・根本的に明るくして下さる、そういう勝れた光明であると、お聞かせいただいています。

この和讃では、阿弥陀仏の清浄の光明にであり、私たちの心が阿弥陀仏のお心に照らされると、私たちの業垢が除かれて解脱を得ると、このように阿弥陀仏の光明が讃えられています。

阿弥陀仏の光明に照らされると、まずは自分の業垢が知らされてきます。

業垢とは、私たちの心に深くこびりついている我執我愛の垢であり、〈自己高挙〉の垢であります。

〈自己高挙〉の心は、自分を肯定し、自分を人よりも高みにあげたい根性であり、それはかならずといっていいほど、他者を高みから引き下ろしたいという煩惱であります。自分は高学歴、高収入、社会的に高い位置におりたく、勝ち組の入りたいのであり、他者は高みから引きずり下ろしたいのであります。それゆえ他者の欠点や短所や過失を見ようとしみます。『大集経』に「心に他の過を見る。この因縁をもつて、悪鬼神に生まる」とありますが、他者を見る目は

「人の過失や欠点を見る」ことに傾いている心であり、それは鬼（悪鬼）になる心であると云われるのであります。フランスのサルトル（哲学者）でしたか、「他者の目は鬼の目である」と言ったと聞いたことがあります。他者の過失や欠点を探ろうとする心は本当におぞましい心ですね。

ふだんの生活でも、人を誉めるよりも人を悪く云ったりケチをつけたりすることの方がずっと多いですね。自分は人から誉められたいけど、自分は人を誉めたくないのです。自分は人から批判されたくないけど、自分は人を批判したいのです。

こういう「我執我愛の自己高挙」の「業垢」は『讚阿弥陀仏偈』では「罪垢」と示されています。また「業垢」について、聖人は「悪業煩惱なり」と注を入れておられますから、罪とは悪業であり煩惱であるといえます。そして、阿弥陀仏は私たちの一切の罪業の垢を除いて下さると云われるのであります。私たちの罪が一切除かれるのと、これは大変なことですね。

阿弥陀仏すなわち南無阿弥陀仏は私たちの罪業を消除し

て下さるのであります。これは本当に有難いことですが、それは一体どういう事でしょうか。

普通、「私」とか「自分」とか「俺」といつているものは、自我であり、身体を自我の所有物のように見ている。そして自我と身体に深く執着している。そういう自我と身体をひっくりかえして「我」「私」「自分」「俺」と愛執し、妄執し、それによって、様々な行業をなしているのが凡夫の生き様であります。自我と身体をひっくりかえして「私」と妄執せしめて、無明と執着が、これが悪業煩惱の本であり、罪の本なのです。

ですから悪業煩惱すなわち罪業の本は妄想妄念（無明）であって、実体はないのですが、この妄念妄想の酒に酔って、それに振り回されて様々な悪業煩惱を起こし、苦しみの中を流転し続けてきたのが私たち凡夫なのであります。こういう凡夫の姿を聖人は「無明のさげにえいふして（酔い伏して）、貪欲・瞋恚・愚痴の三毒をのみ、このみめしおうてそうらいつる」（『ご消息』と仰せられています。

こうした悪業煩惱によって

苦しんでいる私たちを救おうと立ち上がられ、私たちの悪業煩惱を除いて、智慧と慈悲の仏にするべく、永遠の仏は法蔵菩薩となつて、一切衆生を仏に為すための修行をされ、その行が完成して、現在、法蔵菩薩は阿弥陀仏となられ、私たちの罪業を除いて仏に成す功德を南無阿弥陀仏として私たちに与えようと働きかけて下さつていられるのであります。

これは本当に不思議なことなのであり、有難い不可思議なことです。このようなことは凡夫の私たちの浅い知性によつては分かるはずもないのですが、さとりを完成された仏陀世尊は阿弥陀仏の不可思議な尊い働きをさとりきつて、それを私たちに説いて知らせて下さつたのです。

それはどこに説かれているかという点、『仏説無量寿経』（大無量寿経）なのです。この経典を聖人は「真実の教を顕さば、すなわち『大無量寿経』これなり」とお示し下さっています。私たちは自分の小さな計らいを捨てて、この経典が告げ知らせて下さる阿弥陀仏の働き（本願力）を心して聞かねばなりません。

その南無阿弥陀仏を今、お念仏として称え聞かしめられ

ているのであります。仏になる因である南無阿弥陀仏を受け取る（聞き受ける）ことによつて、南無阿弥陀仏は私たちの悪業煩惱の心を撰め取り、ついに私たちの罪業は除かれ浄土に生まれて解脱を得る、いわば仏になさしめられるのであります。

ですから、お念仏を称え、「南無阿弥陀仏」を聞いていることは、私たちが照らし、私たちが悪業煩惱の身であることに知らせ、そのような私たちに「汝の一切の悪業煩惱を除いて必ず仏にするから、我にまかせよ」と喚んで下さる阿弥陀仏の御言葉であります。

「汝の一切の罪は我が引き受けて、汝の罪を除いて仏にする」との大悲の仰せであります。一言で言えば南無阿弥陀仏は「汝を助ける」の誓いであり大悲心であります。この仰せを信受する時、南無阿弥陀仏の功德（仏因）は私に与えられ、浄土に生まれて仏になることが決定するのです。

はかりなき光でありいのちである阿弥陀仏は私たちに南無阿弥陀仏と喚びつづけておられるのです。その縁が熟して（ナムアマミダブツ）と口に称えられ、耳に聞こえしめら

《住職雑感》

れるのです。この南無阿弥陀
仏は私に「汝を助ける」「汝を
引き受けている阿弥陀がここ
にいる」「汝の罪は阿弥陀が除く」
と告げ知らせて下さるのであ
ります。この南無阿弥陀仏に
喚びさまされ、「ああ、阿弥陀
様が私とともにいて下さる」
「私の悪業煩惱を引き受けて
除いて下さる」と知らされ信
知せしめられます。

この信心には仏の智慧の徳
がありますから「信心の智慧」
と申されます。

信心の智慧は、阿弥陀仏が
共にいて下さること、阿弥陀
仏が私のいのちの主であるこ
とを知らせて下さいます。

もう一つ云えば、量りなき
いのちの阿弥陀仏の外に自己
はないこと、阿弥陀仏こそ真
の実在であることを知らされ
ます。そしていわゆる「私」

は自我の思いでしかなく、真
実の自己とされるものは阿弥
陀仏の外にないことを、ほの
かなながらも知らされるのであ
ります。ここにおいては罪業
は一切断たれているのです。

妙好人の才市さんは
「わしが阿弥陀になるじゃな
い。」

阿弥陀の方からわしになる、
なむあみだぶつ」

と歌っています。

そして私のいのちの主体で
まします阿弥陀仏は、自我の
煩惱と悪業によつては塵ほど
もおかされず、汚れず、こわ
れず、逆に衆生の悪業煩惱を
浄化すべく働いて下さってい
ること、その阿弥陀仏に私の
心は常に抱かれています。こ
ろ知らされます。

ただ、この世の人生におい
ては、たとえ阿弥陀仏にであ
つても、この罪の身があるか
ぎり、自我が中心となつて生
活せざるをえないという現実
が一生の間は続きますから、
煩惱悪業は当然湧いてきます。

そして自我の私に離れない
阿弥陀仏が真の主体となりき
る時、いわば私が浄土に生ま
れて仏になる時、私の悪業煩
悩は全く除かれて解脱を得る
と仰せられています。

このご和讃では、清浄光仏
である阿弥陀仏の光に照らさ
れて、私は自我の固まりであ
り悪業煩惱の罪の身であるこ
とを知らされ、同時にこの罪
の身を引き受けて罪を除いて
解脱せしめ仏に為したもう、
その佛徳をここに讃嘆されて
いるのであります。

(了)

近年の台湾の仏教活動は隆盛である
が、なかでも「慈濟会」の活動は注目
すべき展開をしています。長い仏教の
歴史の中で、新たな展開をしていると
いつていいでしょう。慈濟会の根本理
念は、亡き中国の名僧・太虚法師の「人
間仏教」の考えに淵源があり、仏教は
社会を浄化し現実の人々の困苦を救う
働きをするものでなければならぬとい
われ、これを実践的に行おうとして
いるのが台湾仏教ですが、中でも慈濟
会は際だっています。この会の創立者
である證嚴法師（現在七十八才）は二
十六才で尼僧になり、最初は五人の尼
僧とともに単純な自給自足の修行生活
をしていましたが、ある時、貧困のた
めに病院に行けなくて苦しんでいる先
住民のことを知り、また時を同じくし
てカトリックの修道女から「私たちキ
リスト教徒は病院や学校を建てて人々
を救っています、仏教徒は何をして
ますか」と問われ、それらが強烈な縁
となつて「慈濟会」という組織を一九
六六年に立ち上げました。仏教徒は個
々人は慈悲の行いをなしているが、そ
れだけでは範囲が小さく、大きな衆生
利益にはなっていないことを感じてい
たのです。現在、400万人以上の慈
濟会会員、50カ国以上に支部をもつ
大きな団体になっています。

慈濟会は医療活動を中心にし、他に
教育、災害援助、環境保護などを積極
的に行っています。日本の東北大地震災

の時に、多くの慈濟会のボランティア
アがすぐにつけ、台湾で集めた寄
付金を十回にわたり「住宅見舞金」と
して九六九四世帯に配布しました。

慈濟会の本部は台湾の花蓮にあります
が、本部に隣接して慈濟仏教大学があ
り、反対側には大きな慈濟花蓮病院が
あります。他に台湾内に四つの病院を
もっています。花蓮の病院内の壁には
仏陀が病氣の人を助けている大きな絵
があり、あちこちに仏語の額がかかっ
ています。病院には沢山のボランティア
アが活動し、一日の解散時の夕刻には
一同が玄關のホールに集まって合掌し
仏教讃歌を歌って終わります。彼らが
厚い奉仕精神で行っていることは接し
てみてわかりました。また〈大愛TV〉
というTVチャンネルをもっていて仏
教活動を毎日放映しています。なお慈
濟会の聖地といわれる静思精舎には一
七〇人の尼僧たちが自給自足をしなが
ら仏道修行に専念しています。これも
特筆すべきことです。

こういう国際的な社会活動にまで展
開した慈濟会は今までの仏教の歴史に
は殆ど見なかつたことであり、マザー
テレサに劣らぬほどの活動だと思いま
した。

以前、キリスト教の神学者から「仏
教には社会倫理、社会改革の理念や活
動は生まれない」との仏教批判を聞き、
それが私には問題の一つでしたが、実
際にはその後、エンゲージドブディズ
ムや慈濟会などの活動から、仏教の教
えから社会のありかたを変え、困窮し

ている人々を援助する働きが充分起
こりえることが証しされてきたといっ
ていいと思います。これらは近代のキ
リスト教からの刺戟がやはりあったと
思いますが、このような縁にふれて仏
教は新しい展開を二十世紀の後半から
始めてきたと思います。現在のアメ
リカの仏教もそういう姿をとりつつあ
るようです。

何らこういう活動をしていない私が
こんなことを書く資格はありませんが、
「現代仏教」の姿の一つの形を紹介し
てみたからです。(了)

平成27年度御年忌年回表

1	周忌	平成26年亡
3	回忌	平成25年亡
7	回忌	平成21年亡
13	回忌	平成15年亡
17	回忌	平成11年亡
23	回忌	平成5年亡
27	回忌	平成元年
33	回忌	昭和58年
33	回忌	昭和41年
50	回忌	昭和41年

(23回忌と27回忌をせず、25回忌に
いとなむ数え方もあります)

《遠方法話予定》

- ①一月二〇日〜二二日。福岡県八女市、明永寺
- ②二月一四日。福井市、福井別院。
- ③二月十七日。愛知県刈谷市、法林寺。
- ④三月四日。名古屋市、名古屋別院

(詳しくは念佛寺にお尋ね下さい)

木村無相さんの法信

28

(昭和五十八年九月八日のお便りの続きです。無相さん七九歳。往生される四ヶ月前のお便りです)

* * * * *

ワレワレ凡夫のそうした、「佛智疑惑性」も「逆謗・闡提性」も「地獄一定性」も、全部、ワレワレ凡夫の「凡夫性」の一切をお見のがしなく、知りぬききって、見ぬき切つての上からの「念佛往生の誓願」の御建立なので、それで「念佛成佛」と、如来法蔵さまが、御決定までに、五劫もかかったではありませんまいか。それほど「手におえぬ、ワレワレの凡夫性」なのであります。しよう。

○

今さら、ワレワレが本願をウタガオウと、逆謗・闡提の本性、自性を、チラチラあらわそうと、如来、法蔵様におかれては、スデに十劫の昔にそれらの一切を、つぶさに、見抜き、知りきつての上で、「念佛往生」の誓願を

建立無上殊勝願

と、建てられたのであるから、言わば、母親のチブサを赤ン坊が、噛むようなもので、母親からみれば、「やっつとるやっつとる」というようなもの、「佛智疑惑」するほど「ウタガイの齒」「逆謗・闡提の齒」が生えたようなモノで、母親はチブサを噛むようになったコドモの成長を、よるこんでいられるかもわかりませんよ。

○

ほとんどの聞法者は、僧俗ともに「佛智疑惑」の齒が生える

ところまでいかないうちで「ありがたい、ありがたい」と口でいつているだけで、「佛智疑惑」まで、仏法に、ふみこませていただいていないので、「佛智疑惑」まで来れば、『疑惑和讃』の最後に

佛智うたがう罪ふかし

この心、思い知るならば、悔ゆる心をムネとして(縁として)

佛智の不思議をタノムベシ

とある如く、しかしその「佛智フシギをタノム」ということも、「佛智フシギ」から、

建立無上殊勝願

と、ワレワレのために、

建立して下さった

「念佛往生の誓願」

「念佛成仏これ真宗」

の御誓願のまんに

ただ念佛申す

ことが、

「佛智のフシギをタノム」

ということであって、

ただ念佛申す

仰せのままに、

お勅命のまんに

ただ念佛申す

ということのホカに別に

「佛智をタノム」

ということは、ナイことでありましょう。

ナムアマミダブツ ナムアマミダブツ

ナムアマミダブツ ナムアマミダブツ

○

今朝、四時から書きはじめて二時間二十分、今、朝、六時二十分、もう「目」も「腰」も、「体」もつかれたので、これで一応、やめて、朝食後、午前のヒルネをしてから、九時半から、十時ごろから、又、書かせてもらいます。

ナムアマミダブツ ナムアマミダブツ

ナムアマミダブツ ナムアマミダブツ

○

「佛智フシギをウタガウ」ところまで、出させて、いただけたいことは、ありがたいことですよ。

佛智うたがうつみふかし

この心おもい知るならば、

悔ゆる心をムネ(縁)として、

佛智のフシギをタノムベシ

「ナムアマミダブツ 称うべし」

との、御こころ。帰するところは、

ただ念佛にあり。

○

『貞信尼物語』中に、三河のお園同行の次のお歌あり、よくよく味わわれたし。

『貞信尼物語』

九八、お園の詠んだ歌

お園の詠んだ歌の中に、疑(ウタガイ)の歌とて、

疑いよ

ここ聞きわけて

去んでたも

そちが居るゆえ

信が得られぬ

疑いに

ここをのけとは

無理なこと

ムネ(胸)をはなれて

ドコに行きましょ

疑いよ

是非ゆかぬなら

そこに居よ

ソチにかまわず

信をとるべし

疑いは

どこに居るか

問うたれば

かわりに出てくる

念佛の声

これは、まことにありがたいお歌です。

①我がムネのウタガイに、「どうか、このムネから去ってほしい。お前が居るから真

実信心が得られぬ」

と言うたら、ウタガイの曰く、

②このアナタのムネから、私は、ここをの

いてくれ、去ってくれとは、ムリなことを

言うものである。アナタのムネからどこに

も行きようがない。

そこで

③ウタガイよ。どうでも、オレのムネから、

去らないというのなら、かまわないから、

オレのムネに頑張っておるがいい。オレは

お前なんか相手にしないで、お前が居ても

よいから、よき人の仰せのまま如来のお勅

命、をそのままいただく

と私が、わがムネのウタガイは相手になら

ず、そのまま、よき人の仰せ、如来の勅

命を信したら、ウタガイのウタガイは見えな

くなくて、ウタガイのかわりにお念佛が出

たとのこと。

④ウタガイは、どこに居るかと問うたれば、

かわりに出てくる念佛の声

とのこと。

(続く)

